



学長×鳴響連 対談

佐古学長たったの希望により、本学学生の阿波踊り「鳴響連」の連長田村陽咲さんと、昨シーズンで引退した前連長の山崎佑花さんとの対談を行いました（令和4年10月28日（金）実施）。

佐古学長《以下、学長》

—コロナ禍で3年間、公の舞台で阿波踊りが踊れなかった訳ですが、日頃、踊る機会はあるのですか？

山崎さん《以下、山崎》

—通常は4月に新入生歓迎の場で披露するのですが、今年は蜂須賀祭りに学生合同連で呼んでいただきました。全大学で初めて集まって踊ったのが春で、夏は6月に学生合同連で両国杯、7月中旬に鳴門市の納涼市、8月に鳴門市（大道銀天街）、徳島市の阿波踊りに呼んでいただきました。

《学長》

—そうそう、私がもうひとつ嬉しかったのは、鳴門市の阿波踊りの時に、街を活性化したいとの思いから、大道銀天街の方たちと協力したという話を伺ったのだけれども、それはどのような経緯からですか？

《山崎》

—去年卒業された先輩が大道銀天街の方とお知り合いで、その縁で呼んでいただきました。鳴門市の阿波踊りの中止が決まった後、「私達の代がこの夏に踊る機会がないと、鳴門で一度も



栈敷で踊ることなく引退をしてしまう」という話を聞いた銀天街の方が、「なんとかして鳴響連の3年生に最後の夏に踊らせてあげたい」というご厚意を寄せてくださり、

それならば「どういうフォーメーションでやれば良いかな？」とか、鳴響連としてできることを考えました。

また、「にわか連」についても、鳴響連が先導で踊らせていただいたのですが「どうしたらたくさんの人に来ていただいて、一緒に踊ってもらえるかな？」とか、私達が出来ることを考えていました。

《学長》

—今仰ったように、阿波踊りの力で街を活性化することで皆さん活躍されたし、街の賑わいを取り戻すためのお手伝いもしている様なので、とても嬉しかったです。何か地域の人たちと一緒に活動する中で気づいたことはありますか？

《山崎》

—今までもイベントに出させてもらうことはあったのですが、その裏側を知らずに当日行って、踊るだけ帰ってくるだけだったので、準備の裏側の大変さ、演舞に出られるのはそういう方々のおかげというのは、本当に感じました。

対談の全編は、鳴門教育大学公式ウェブページ内「大学案内」⇒「学長だより」⇒「学長トピックス」で公開中。

URL:<https://www.naruto-u.ac.jp/information/01/008.html>



令和5年4月から“全国初”の連携教職課程を開設

鳴門教育大学を含む四国5国立大学は、2022(令和4)年11月25日(金)付けで文部科学大臣から認定を受け、令和5年4月から連携教職課程を開設しました。連携教職課程の開設は全国初です。

四国5国立大学による連携教職課程では、単独大学の教育リソースだけでは為しえない、一層厚みのある教員養成の実現を目指します。例えば、連携大学が特色ある授業科目を共有しあうことで、学生が履修できる授業科目が豊富になります。さらに、既存の科目を共有するだけでなく、連携大学の教員が協力して、今までにない新しい授業科目を創ります。

この広域分散協働型の連携による取組は、地域ブロックレベルでの教員養成機能を最適化するこれからの教職課程のモデルとなるものです。



教員養成は 四国から

四国の連携教職課程で教員をめざしませんか?

四国の国立大学が連携して、全国初となる「連携教職課程」を2023年度から開設します。

豊富な授業科目

- 連携大学の特色ある授業科目を履修することができます!
- 連携大学が協力して新しい授業科目を創ります!

活発な学生交流

- 授業履修を通じて他大学の学生と交流できます!
- 教員を目指す皆さんの仲間と切磋琢磨しましょう!

免許種	参画大学
美術(中・高一種)	徳島大学・鳴門教育大学・香川大学
家庭(中・高一種)	鳴門教育大学・香川大学・高知大学
情報(高一種)	鳴門教育大学・香川大学・愛媛大学・高知大学

四国人財育成塾において早藤幸隆教授、栗田高明准教授がパネリストとして参加

2022(令和4)年9月8日(木)、四国地域大学ネットワーク機構と高知大学との共催で、四国人財育成塾シンポジウムが高知大学において開催されました。第3部において「カーボンニュートラル・脱炭素に向けた大学の役割」をテーマにパネルディスカッションが行われ、本学からは理科教育コースの栗田高明准教授が、環境目標や環境活動計画をもとに、さまざまな授業や学内外の活動をとらして環境マインドを身につける本学の取組を紹介しました。



リモートで参加する早藤教授

また、令和5年2月10日(金)には同機構と愛媛大学との共催で、同シンポジウムが愛媛大学において開催されました。「リカレント教育を軸に地域で活躍する人材の育成と地域の発展」をテーマにパネルディスカッションが行われ、本学からは理科教育コースの早藤幸隆教授が、ジュニアドクター育成塾(JST)の採択事業である徳島県高等教育機関連携型ジュニアドクター発掘・養成講座の取組をもとに、教員養成大学としてリカレント教育の主軸となる中核教員の発掘・養成と共に、地域を牽引する理数系人材の才能育成システムの構築として本学の取組を紹介しました。



パネリストとして参加する栗田准教授(左)

教員養成DX推進機構の開設

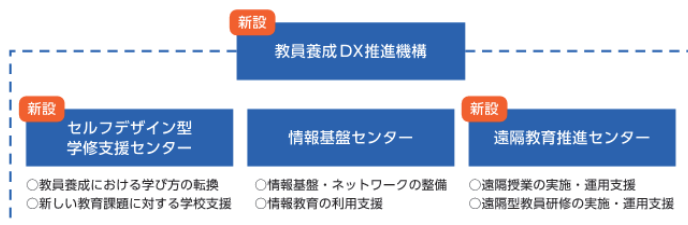
本学は、2022(令和4)年4月に、「教員養成DX推進機構」を開設しました。「教員養成DX推進機構」は、「セルフデザイン型学修支援センター」「遠隔教育推進センター」「情報基盤センター」からなり、教員養成におけるDXを強力に推進することを目的に開設したものです。

「セルフデザイン型学修支援センター」は、教育実習録・教職キャリアノート等を電子化し、ラーニングアナリティクスにより学修成果・経過を可視化して、学生が自らの学修をデザインし、主体的な学びを支援します。

「遠隔教育推進センター」は、大学院派遣の機会を得ることが困難な現職教員を対象とした教職大学院遠隔教育プログラム、四国の国立大学との連携教職課程、現職教員のためのコンテンツの開発・配信の支援を行います。

「情報基盤センター」は、これらを支援するため、2023(令和5)年2月に学内の情報基盤を最先端のものへと更新しました。また、徳島県下の公立学校、附属学校等との連携によるGIGAスクール構想に関わる先進実践事例の開発や集積、学校の教育改革の支援を行います。

教員養成DX推進機構では、これら教員養成ならではのデジタル・トランスフォーメーションを推進し、教員養成をめぐる多様な課題解決に寄与してまいります。



教員養成DX推進機構開設記念シンポジウムを開催

2022（令和4）年12月22日（木）に教員養成DX推進機構開設記念シンポジウムをメタバース（oVice）によるオンラインで実施し、同大教職員、他大学の教職員、県内外の教育関係者など約100人が参加しました。

本学では、令和4年度にセルフデザイン型学修支援センター、情報基盤センター、遠隔教育推進センターで構成する教員養成DX推進機構を設置、教員養成ならではのDXの推進により今後のわが国の教師教育を巡る多様な課題解決に取り組んでいます。

シンポジウムでは、開所セレモニー後、佐古学長の開会挨拶、小幡泰弘文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長、榑浩一徳島県教育委員会教育長の来賓挨拶があり、藤村裕一教員養成DX推進機構長、各センター所長から教員養成DX推進機構の概要並びに活動紹介などが行われました。



教員養成DX推進機構開所式の様子

次に、加治佐哲也兵庫教育大学長から「これからの教員に求められる資質能力と教員養成の課題」、藤村裕一教員養成DX推進機構長から「教員養成におけるDXの推進」について基調講演が行われました。

続いて、記念シンポジウム「これからの教員養成とDX」として、生田雅和徳島県教育委員会教育次長、梅津正美理事・副学長、藤原伸彦セルフデザイン型学修支援センター所長、益子典文岐阜大学教育学部副学部長から講演の後、泰山裕准教授をコーディネーターに講演者による質疑討論が行われ、最後に美馬持仁理事・副学長による閉会挨拶をもって終了しました。

教職大学院遠隔教育プログラムがスタート

働きながら学ぶ現職教員のために、幼児教育コース、学校づくりマネジメントコース、生徒指導コース、学習指導力・ICT教育実践力開発コースの教職系4コースに、新しく「教職大学院遠隔教育プログラム」を令和4年度に開設しました。このプログラムの特色は、1つ目に、働きながら学べる工夫として、長期履修学生制度（3～5年）やフレックスタイム制を採用しています。また、今日の授業で学んだことを明日の教育活動に活かせるように学びと実践をタイムリーに連動させる学修スタイルとなっています。

2つ目に、スクーリングやオンラインゼミで、他県や異校種の学修者がクロスオーバーする「学びのコミュニティ」により協働的な学びを可能にしています。3つ目に、教育活動に則した個別課題を探究するためにオンラインによる大学教員の「伴走型指導」をとっています。4つ目に、学修や実践研究などに関する相談や支援を受けられるように、教職経験や大学院の学修経験をもつ専任メンターが常置されています。令和4年度には1都1道1府16県から入学者を迎え、学修をスタートし、夏にはスクーリングも行われ、個々に学びを着実に進めています。



遠隔授業の様子

講義棟に水道直結型ウォーターサーバーを設置

12



給水サーバーの活用で、
輸送コストとゴミを減らし、
CO₂の削減に貢献！

**環境負荷は、
ペットボトル
飲料水と比べて
約30-40分の1！**

使用済みペットボトルは、国内で処理できないほど膨大です！
プラごみの処理の海外依存は、日本のSDGs達成度を下げる要因になっています。

本学では、家庭科教育コースの坂本有芳教授の指導のもと、カーボンニュートラル達成の一環として、2023（令和5）年の年初より水道直結型ウォーターサーバーを講義棟1階ホールに設置しました。設置日には、家庭科教育コースの学生によりウォーターサーバーの設置の意義及び目的についてプレゼンテーションが行われました。

飲料水は重量があり輸送時に多くのCO₂を発生しますが、本学が設置したウォーターサーバーは水道水を浄化して使用しており、輸送に係るCO₂の排出を抑制できるほか、ペットボトル使用量の削減につながることから、学生や教職員の利用が進み、本学が目指す持続可能な社会の担い手育成に資することが大いに期待されます。

本学では、2016（平成28）年度より坂本教授をプロジェクトリーダーとして、効果的な消費者教育の内容と方法について検討・実践する「消費者教育推進プロジェクト」を実施しているほか、「鳴門教育大学環境経営方針」の下、環境省が定めた環境経営システムに関する第三者認証・登録制度である「エコアクション21」を取得し、全学を挙げて持続可能な社会の実現を目指しています。

令和4年度鳴門教育大学学生表彰状授与式

2022 (令和4) 年11月4日 (金), 令和4年度鳴門教育大学学生表彰状授与式が举行されました。受賞者の氏名及び表彰事由は以下のとおりです。

【個人】

- ・大久保慎宙さん 中学校教育専修 美術科教育コース 3年
第76回徳島県美術展 特選 (日本画部門)
- ・安藤 七海さん 高度学校教育実践専攻 保健体育科教育コース 1年
第73回四国地区大学総合体育大会 女子100mH 第1位
- ・寺内 春菜さん 高度学校教育実践専攻 保健体育科教育実践分野 2年
第73回四国地区大学総合体育大会 女子棒高跳 第1位
- ・佐藤奈那子さん 高度学校教育実践専攻 社会科教育コース 1年
第25回徳島県女子剣道選手権大会 (第61回全日本女子剣道選手権大会県予選会) 第3位
- ・池永翔太郎さん 小学校教育専修 学校教育実践コース 3年
パソコンウイルス対処名目の架空料金請求詐欺を未然防止し, 鳴門警察署から表彰

【団体】

- ・野球部
第73回四国地区大学総合体育大会 準優勝
- ・ラグビーフットボール部
第73回四国地区大学総合体育大会ラグビーフットボール競技 (セブンズ) 準優勝
- ・女子ハンドボール部
第73回四国地区大学総合体育大会 準優勝



表彰式の様子



ラグビーフットボール部



陸上競技の寺内さんと安藤さん



硬式野球部



女子ハンドボール部

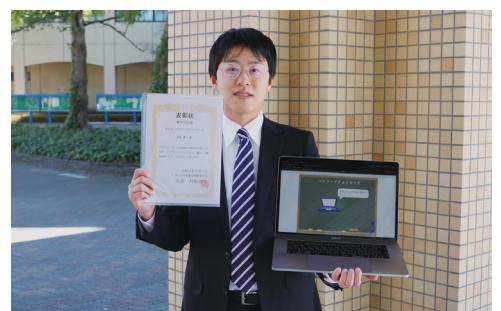
技術教育創造の世界 優秀奨励賞

2022 (令和4) 年3月3日 (木), 大学院学校教育研究科技術・工業・情報科教育コースの西脇勇斗さんが, 第16回技術教育創造の世界 (大学生版) 発明・工夫コンテストで優秀奨励賞を受賞されました。

受賞した「パスワードチェッカーズ」は, 児童のSNS利用が上昇傾向にあるなか, 小学校高学年を対象に安全なパスワードとは何かについて考えさせることを目的に開発されたもの。

小学生でもわかりやすく重要な「安全なパスワードの特徴」が理解でき, 総合的な学習の時間で本教材の使用を目指す。

なお, 今後は中学生を対象とした「パスワードチェッカーズ」も作成したいとのこと。このたびの受賞, 誠にありがとうございます。



優秀奨励賞を受賞された西脇さん

日本語弁論大会 最優秀賞

2022 (令和 4) 年 7 月 24 日 (日) に開催された、徳島県内在住の外国人による日本語弁論大会 (県国際交流協会主催) において、大学院学校教育研究科心理臨床コースの李千菁さん (台湾出身) が最優秀賞に選ばれました。

今年度の大会には、インドネシアなど 7 カ国 1 地域出身の 13 人が出場し、李さんは「私の生き方 人と人とのつながり」をテーマに、これまで支えてくれた家族や友人、大学の先生への思いを踏まえて熱弁を振りました。

この気持ちを大切に育て、将来は臨床心理士として多くの人を支える存在になられることを期待します。



スピーチをする李千菁さん

消費者教育次世代リーダー認定証授与式



学生に認定証を授与する佐古学長

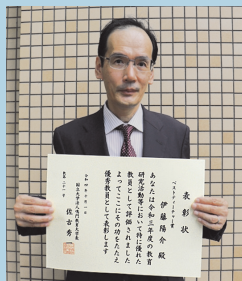
2022 (令和 4) 年 6 月 27 日 (月), 消費者教育次世代リーダー認定証を本学の佐古秀一学長より学生ひとりひとりに手渡しで授与していただきました。全員に対する授与の後には全国をリードする取組みを担う学生への激励の言葉をいただき、学生が自身の携わった活動の意義を再確認するよい機会となりました。

消費者教育次世代リーダーの認定は徳島県より受けたもので、全県の小中高等学校で実施する出前授業のサポートを積極的に行った学生に対して行われます。2017年から開始された取組みで、この度認定証を授与された学生は第 6 期生です。徳島県では消費者情報センターに勤務する県立学校の現役教員が、各地で出前授業を実施する体制を築いています。本学の学生は事例のプレゼンテーションや話し合い

活動の支援、机間指導などを出前授業で担当しています。

授業の中では、インターネットやデジタル機器との付き合い方、契約トラブルの防ぎ方、成年に必要な消費生活の知識などについて、最新の消費相談事例をふまえた実践的な内容を扱います。学生は現職の教員による授業を近くでサポートすることで、消費生活についての理解を深めるとともに、効果的な授業方法を体得しています。

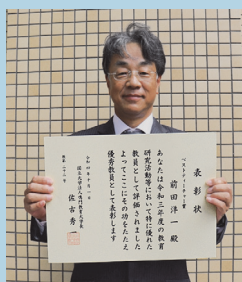
鳴門教育大学優秀教員表彰



技術・工業・情報科教育コース ^{いとう ようすけ} 伊藤 陽介 教授

学校におけるプログラミング教育に関する実践的研究に取り組むほか、情報基盤センター所長として 8 年間、学長補佐として 2 年間、ICT 戦略を担当し、教育研究と事務支援に必要な情報基盤システムを導入・運用することで本学のデジタル化に貢献した。

また、知的財産室副室長として四国産学連携イノベーション共同推進機構の設置・運営に関わり産学連携活動を推進するとともに、四国 5 国立大学連携による連携教職課程の設置準備 WG 委員を担当する等、他大学との連携を推進してきたことなどを評価。



学校づくりマネジメントコース ^{まえだ よういち} 前田 洋一 教授

文部科学省「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」等を活用しながら、教員研修と教職大学院の授業を効率・効果的に連携させることによる実践的研究を行う。

また「教職員支援機構・四国地域教職アライアンス鳴門教育大学センター」の初代センター長として、徳島県教育委員会と連携しながら School Leader Project を実施。地域連携においては、長年にわたり徳島県教育委員会と本学の連携強化に努め、「徳島県小中一貫教育推進事業」等に貢献してきたことなどを評価。

教育研究コラム



鳴門教育大学大学院学校教育研究科
美術科教育コース特命教授

小川 勝 氏

おがわ まさる

専門分野は美術史学・芸術学。世界の先史岩面画の制作年代などの研究を行い、特にフランコ=カンタブリア美術の洞窟壁画に関してその造形空間を現象学的観点から考察している。また、美術の社会的機能に関し、民族芸術や現代美術を参照して、議論を展開している。

人はなぜ絵を描くのか：世界最古の美術を求めて

小川 勝

「人間にとって芸術とは何か？」この難しい問題に、私は学生の時から40年以上にわたって立ち向かってきました。もちろん、簡単には答えは出ませんが、未だに暗中模索の状態ではありますが、研究者にとって重要なのは、安易に解答に至ることではなく、一つの重要な問題をめぐって、考えつづけることではないでしょうか。具体的には、それまでなかった美術というもの、初めて現れた時代に立ち戻って、その起源を見つめることによって、明らかになることもあるのではないかと思います、私は、約4万年前にヨーロッパ西部で作られたはじめた洞窟壁画を主な研究対象としてきました。

フランスのラスコーやスペインのアルタミラで知られる洞窟壁画は、真っ暗な鍾乳洞の不規則な形状の岩面に大きな動物像などが描かれている作品群で、その圧倒的にダイナミックな表現は、今でも私たちに深い感動を与えます。普通的美術作品のように持ち運びができないので、作品が作られた現場に実際に行き、作品を目の当たりにすると、今もなお、作者たちのいきいきとした筆遣いが伝わってきます。作者たちが存在したまさにその場所にたつみ、美術とは何かを考えつづけるのです。

岩面に彩色したり刻んだりした美術を岩面画と呼びますが、世界各地に残されていて、それを実際に見に行くフィールド・ワークも行います。アマゾンのジャングルをかき分け、果てしないサハラ砂漠を突き進み、今はあまり人が住まない世界

の辺境に多く発見されている作品にアプローチするのです。これまで何十カ国も訪れましたが、広大な景色に包まれて、美術を制作することの意味を探ってきました。

答えを見つけるのが難しいことを調査しつづけることに何の意味があるのか、という疑問を持たれる方も多かもしれません。しかし、すぐに目に見える成果が得られるとは限らない基礎研究を、教育大学という場で続けることも、今後の世代のためには欠かすことができない営為だと思います。美術をはじめとする芸術もまた人間が生きるのに不可欠なものなのだ、将来の子供たちに知ってもらいたいことも、過去を学び現在に生きる私たちの責務なのです。



「フランス北西部、マイヤヌ・ジャンヌ洞窟の頭部の小さなウマ」

写真は、私が特別な許可を得て、洞窟の中で撮った写真です。

他にも、世界各地で撮影した作品写真が、オンライン美術館「hasard (アザール)」の常設企画展示「先史岩面画への招待」として公開されていますので、ご覧ください。

<https://wam-hasard.com/>

大学公式マスコットキャラクター「なる★ワン」使用のお願い

公式マスコットキャラクター「なる★ワン」を、本学の教職員・学生が「教育・研究、課外活動、広報活動」で使用する場合、申請なしで使用できます。

研究発表会や部活動、セミナーなどで積極的に使用していただけることを期待しています！

なお、使用後は入試課広報係（本部棟1階、ギャラリー前）へお知らせ下さい。kohou@naruto-u.ac.jp

学生のみなさんと一緒に成長していきたいです！
たくさん勉強し、いろいろ経験し、
ぜったいに先生になるぞ～！

